

学校名：専門学校大阪ビジネス・アカデミー		授業担当	学科名：ペットビジネス学科
教科名：グルーミング実習(1)～(9)		塩田恵理子 実務経験有	■ 1年前期
到達 目標	前期終了時の実技試験で、ダックス1頭2時間以内にベーシック作業（爪切り・耳掃除・バリカン・ブラッシング・シャンピング・ペイジング）が仕上げられること		9単位 270時数
	(成績評価の方法・基準) 出席率・課題評価		
回	授業内容		
1	グルーミング概論・講義		
2	グルーミング概論・講義		
3	グルーミング概論・講義		
4	3人で1頭の実習を2週、2人で1頭の実習を2週行い、その後1人で1頭の実習を行う。 ダックス1人で2時間以内を目指す。		
5	3人で1頭の実習を2週、2人で1頭の実習を2週行い、その後1人で1頭の実習を行う。 ダックス1人で2時間以内を目指す。		
6	3人で1頭の実習を2週、2人で1頭の実習を2週行い、その後1人で1頭の実習を行う。 ダックス1人で2時間以内を目指す。		
7	3人で1頭の実習を2週、2人で1頭の実習を2週行い、その後1人で1頭の実習を行う。 ダックス1人で2時間以内を目指す。		
8	3人で1頭の実習を2週、2人で1頭の実習を2週行い、その後1人で1頭の実習を行う。 ダックス1人で2時間以内を目指す。		
9	3人で1頭の実習を2週、2人で1頭の実習を2週行い、その後1人で1頭の実習を行う。 ダックス1人で2時間以内を目指す。		
10	3人で1頭の実習を2週、2人で1頭の実習を2週行い、その後1人で1頭の実習を行う。 ダックス1人で2時間以内を目指す。		
11	3人で1頭の実習を2週、2人で1頭の実習を2週行い、その後1人で1頭の実習を行う。 ダックス1人で2時間以内を目指す。		
12	3人で1頭の実習を2週、2人で1頭の実習を2週行い、その後1人で1頭の実習を行う。 ダックス1人で2時間以内を目指す。		
13	3人で1頭の実習を2週、2人で1頭の実習を2週行い、その後1人で1頭の実習を行う。 ダックス1人で2時間以内を目指す。		
14	3人で1頭の実習を2週、2人で1頭の実習を2週行い、その後1人で1頭の実習を行う。 ダックス1人で2時間以内を目指す。		
15	3人で1頭の実習を2週、2人で1頭の実習を2週行い、その後1人で1頭の実習を行う。 ダックス1人で2時間以内を目指す。		
16	前期テスト		

成績評価の基準	再試験に関して	成績の評価の方法
授業評価は5段階で評価され、単位の認定が行われる。またGPAの評価はオリエンテーション時に学生へ公表、保護者へ郵送される。 ・成績は5段階で評価を行う A=優秀B=良いC=標準D=不可 ・GPA評価制度により客観的に評価を行う。 Gポイント変換：A=3 B=2 C=1 D=0 算出：(教科のGPA評価ポイント×単位数)の全教科合計÷総単位数(履修登録単位の総数)	定期試験で合格出来なかった学生のための再試験を実施。	前期終了時、後期終了時に実施を行い、学習状況の把握を行う。
		その他
		授業の理解度の低い学生対象の補講を実施。姉妹校と共同で、多彩な授業を展開するクロスオーバー・フライデーを実施。

学校名：専門学校大阪ビジネス・アカデミー		授業担当	学科名：ペットビジネス
教科名：グルーミング実習(1)～(9)		塩田恵理子 実務経験有	■ 1年後期
到達 目標	後期終了時の実技試験で、トイプードル1頭2時間以内にベーシック作業、		9単位 270時数
	カットが2.5時間以内に仕上げられること		
	(成績評価の方法・基準) 出席率・課題評価		
回	授業内容		
1	週3回の実習のうち1回はベーシックのみ行う。ベーシック認定不合格者はダックスのベーシックを行い、合格者はプードル等のトリミング犬種のベーシックを行う。他2回の実習はプードル、ヨーキー、シーズー等のトリミング犬種のベーシック及びトリミングを行う。		
2	週3回の実習のうち1回はベーシックのみ行う。ベーシック認定不合格者はダックスのベーシックを行い、合格者はプードル等のトリミング犬種のベーシックを行う。他2回の実習はプードル、ヨーキー、シーズー等のトリミング犬種のベーシック及びトリミングを行う。		
3	週3回の実習のうち1回はベーシックのみ行う。ベーシック認定不合格者はダックスのベーシックを行い、合格者はプードル等のトリミング犬種のベーシックを行う。他2回の実習はプードル、ヨーキー、シーズー等のトリミング犬種のベーシック及びトリミングを行う。		
4	週3回の実習のうち1回はベーシックのみ行う。ベーシック認定不合格者はダックスのベーシックを行い、合格者はプードル等のトリミング犬種のベーシックを行う。他2回の実習はプードル、ヨーキー、シーズー等のトリミング犬種のベーシック及びトリミングを行う。		
5	週3回の実習のうち1回はベーシックのみ行う。ベーシック認定不合格者はダックスのベーシックを行い、合格者はプードル等のトリミング犬種のベーシックを行う。他2回の実習はプードル、ヨーキー、シーズー等のトリミング犬種のベーシック及びトリミングを行う。		
6	週3回の実習のうち1回はベーシックのみ行う。ベーシック認定不合格者はダックスのベーシックを行い、合格者はプードル等のトリミング犬種のベーシックを行う。他2回の実習はプードル、ヨーキー、シーズー等のトリミング犬種のベーシック及びトリミングを行う。		
7	週3回の実習のうち1回はベーシックのみ行う。ベーシック認定不合格者はダックスのベーシックを行い、合格者はプードル等のトリミング犬種のベーシックを行う。他2回の実習はプードル、ヨーキー、シーズー等のトリミング犬種のベーシック及びトリミングを行う。		
8	週3回の実習のうち1回はベーシックのみ行う。ベーシック認定不合格者はダックスのベーシックを行い、合格者はプードル等のトリミング犬種のベーシックを行う。他2回の実習はプードル、ヨーキー、シーズー等のトリミング犬種のベーシック及びトリミングを行う。		
9	週3回の実習のうち1回はベーシックのみ行う。ベーシック認定不合格者はダックスのベーシックを行い、合格者はプードル等のトリミング犬種のベーシックを行う。他2回の実習はプードル、ヨーキー、シーズー等のトリミング犬種のベーシック及びトリミングを行う。		
10	週3回の実習のうち1回はベーシックのみ行う。ベーシック認定不合格者はダックスのベーシックを行い、合格者はプードル等のトリミング犬種のベーシックを行う。他2回の実習はプードル、ヨーキー、シーズー等のトリミング犬種のベーシック及びトリミングを行う。		
11	週3回の実習のうち1回はベーシックのみ行う。ベーシック認定不合格者はダックスのベーシックを行い、合格者はプードル等のトリミング犬種のベーシックを行う。他2回の実習はプードル、ヨーキー、シーズー等のトリミング犬種のベーシック及びトリミングを行う。		
12	週3回の実習のうち1回はベーシックのみ行う。ベーシック認定不合格者はダックスのベーシックを行い、合格者はプードル等のトリミング犬種のベーシックを行う。他2回の実習はプードル、ヨーキー、シーズー等のトリミング犬種のベーシック及びトリミングを行う。		
13	週3回の実習のうち1回はベーシックのみ行う。ベーシック認定不合格者はダックスのベーシックを行い、合格者はプードル等のトリミング犬種のベーシックを行う。他2回の実習はプードル、ヨーキー、シーズー等のトリミング犬種のベーシック及びトリミングを行う。		
14	週3回の実習のうち1回はベーシックのみ行う。ベーシック認定不合格者はダックスのベーシックを行い、合格者はプードル等のトリミング犬種のベーシックを行う。他2回の実習はプードル、ヨーキー、シーズー等のトリミング犬種のベーシック及びトリミングを行う。		
15	週3回の実習のうち1回はベーシックのみ行う。ベーシック認定不合格者はダックスのベーシックを行い、合格者はプードル等のトリミング犬種のベーシックを行う。他2回の実習はプードル、ヨーキー、シーズー等のトリミング犬種のベーシック及びトリミングを行う。		
16	後期テスト		

成績評価の基準	再試験に関して	成績の評価の方法
授業評価は5段階で評価され、単位の認定が行われる。またGPAの評価はオリエンテーション時に学生へ公表、保護者へ郵送される。 ・成績は5段階で評価を行う A=優秀 B=良い C=標準 D=不可 ・GPA評価制度により客観的に評価を行う。 Gポイント変換：A=3 B=2 C=1 D=0 算出：(教科のGPA評価ポイント×単位数)の全教科合計÷総単位数(履修登録単位の総数)	定期試験で合格出来なかった学生のための再試験を実施。	前期終了時、後期終了時に実施を行い、学習状況の把握を行う。
		その他 授業の理解度の低い学生対象の補講を実施。姉妹校と共同で、多彩な授業を展開するクロスオーバー・フライデーを実施。

学校名：専門学校大阪ビジネス・アカデミー		授業担当	学科名：ペットビジネス学科
教科名：グルーミング実習(10)		塩田恵理子 実務経験有	■ 1年前期
到達 目標	前期終了時の実技試験で、ダックス1頭2時間以内にベーシック作業（爪切り・耳掃除・バリカン・ブラッシング・シャンピング・ペイジング）が仕上げられること		2単位 30時数
	（成績評価の方法・基準）出席率・課題評価		
回	授業内容		
1	グルーミング概論・講義		
2	グルーミング概論・講義		
3	グルーミング概論・講義		
4	3人で1頭の実習を2週、2人で1頭の実習を2週行い、その後1人で1頭の実習を行う。 ダックス1人で2時間以内を目指す。		
5	3人で1頭の実習を2週、2人で1頭の実習を2週行い、その後1人で1頭の実習を行う。 ダックス1人で2時間以内を目指す。		
6	3人で1頭の実習を2週、2人で1頭の実習を2週行い、その後1人で1頭の実習を行う。 ダックス1人で2時間以内を目指す。		
7	3人で1頭の実習を2週、2人で1頭の実習を2週行い、その後1人で1頭の実習を行う。 ダックス1人で2時間以内を目指す。		
8	3人で1頭の実習を2週、2人で1頭の実習を2週行い、その後1人で1頭の実習を行う。 ダックス1人で2時間以内を目指す。		
9	3人で1頭の実習を2週、2人で1頭の実習を2週行い、その後1人で1頭の実習を行う。 ダックス1人で2時間以内を目指す。		
10	3人で1頭の実習を2週、2人で1頭の実習を2週行い、その後1人で1頭の実習を行う。 ダックス1人で2時間以内を目指す。		
11	3人で1頭の実習を2週、2人で1頭の実習を2週行い、その後1人で1頭の実習を行う。 ダックス1人で2時間以内を目指す。		
12	3人で1頭の実習を2週、2人で1頭の実習を2週行い、その後1人で1頭の実習を行う。 ダックス1人で2時間以内を目指す。		
13	3人で1頭の実習を2週、2人で1頭の実習を2週行い、その後1人で1頭の実習を行う。 ダックス1人で2時間以内を目指す。		
14	3人で1頭の実習を2週、2人で1頭の実習を2週行い、その後1人で1頭の実習を行う。 ダックス1人で2時間以内を目指す。		
15	3人で1頭の実習を2週、2人で1頭の実習を2週行い、その後1人で1頭の実習を行う。 ダックス1人で2時間以内を目指す。		
16	前期テスト		

成績評価の基準	再試験に関して	成績の評価の方法
授業評価は5段階で評価され、単位の認定が行われる。またGPAの評価はオリエンテーション時に学生へ公表、保護者へ郵送される。	定期試験で合格出来なかった学生のための再試験を実施。	前期終了時、後期終了時に実施を行い、学習状況の把握を行う。
・成績は5段階で評価を行う A=優秀B=良いC=標準D=不可 ・GPA評価制度により客観的に評価を行う。 Gポイント変換：A=3 B=2 C=1 D=0 算出：(教科のGPA評価ポイント×単位数)の全教科合計÷総単位数(履修登録単位の総数)		その他
		授業の理解度の低い学生対象の補講を実施。姉妹校と共同で、多彩な授業を展開するクロスオーバー・フライデーを実施。

学校名：専門学校大阪ビジネス・アカデミー		授業担当	学科名：ファッションビジネス学科
教科名：スタイリングⅠ（１）（２）		牧野 博之 実務経験有	■ 1年前期
到達 目標	ファッション業界で必要とされる知識を使用して、トレンド感のあるスタイリングが提案できる生地、色名、洋服のディティール、アイテム名が理解できている。 就職先のSNSを提案＆展開できるスキル。		2単位 60時数
回	授業内容		
1	スタイリング概要 名簿用撮影 スタイリストごっこ撮影 ファッション用語＆ブランドクイズ		
2	ディスプレイスタイリング1 1F北側ディスプレイスペースをテーマに沿ってスタイリング		
3	就活エントリーシート用 撮影 就活エントリーシートに添付する全身撮影＆キャプション		
4	洋服のディティール トップス＆ボトム＆服飾雑貨のディティールを学習		
5	ディスプレイスタイリング2 ミニトルソーを使用してVMDスタイリングを考える		
6	洋服のフィッティング 身長＆体型別のフィッティング知識＆スキル		
7	服飾雑貨の広告1 ラフ制作＆プレゼン 服飾雑貨のスタイリングプランをプレゼン		
8	洋服のメンテナンス 洋服の素材を学習 洗濯表示も付随 素材別知識を体得		
9	服飾雑貨の広告2 撮影 服飾雑貨のプレゼン通貨案を後日撮影		
10	年代別ファッション1 その時代のカルチャーと当時のトレンドを学習		
11	服飾雑貨の広告 撮影 上記でのプレゼン通過案を撮影		
12	雑誌研究 ファッション誌をテキストに雑誌別テイスト＆購買層を研究		
13	夏休み宿題 夏休みに制作する課題を説明		
14	筆記テスト 筆記テスト		
15	実技テスト 実技テスト		
16	前期リフレクション 前期まとめ テスト答案返却 個人面談 前期授業のまとめ		

成績評価の基準		再試験に関して	成績の評価の方法
授業評価は5段階で評価され、単位の認定が行われる。またGPAの評価はオリエンテーション時に学生へ公表、保護者へ郵送される。		定期試験で合格出来なかった学生のための再試験を実施。	前期終了時、後期終了時に実施を行い、学習状況の把握を行う。
			その他
・成績は5段階で評価を行う A=優秀B=良いC=標準D=不可 ・GPA評価制度により客観的に評価を行う。 Gポイント変換： A=3 B=2 C=1 D=0 算出：(教科のGPA評価ポイント×単位数)の全教科合計÷総単位数(履修登録単位の総数)			授業の理解度の低い学生対象の補講を実施。姉妹校と共同で、多彩な授業を展開するクロスオーバー・フライデーを実施。

学校名：専門学校大阪ビジネス・アカデミー		授業担当	学科名：ファッションビジネス学科
教科名：スタイリングⅠ（１）（２）		牧野 博之 実務経験有	■ 1年後期
到達 目標	ファッションのプロとして必要な知識&スキルの習得。		2単位 60時数
	ファッションの楽しさを授業を通じて体感してもらう。		
	SNS、WEB展開可能な「映えるスタイリング」を制作する授業構成。		
回	授業内容		
1	就活エントリーシート用 撮影		
	就活エントリーシートに添付する全身撮影&キャプション		
2	雑誌研究		
	ファッション誌をテキストにテキスト&購買層を研究		
3	テーマ別スタイリング①		
	ロック、ストリート、フェミニン等のテーマにそってスタイリングを考える		
4	テーマ別スタイリング②		
	ロック、ストリート、フェミニン等のテーマにそってスタイリングを考える		
5	ディスプレイスタイリング1		
	ミニトルソーを使用してVMDスタイリングを考える		
6	コーディネート説明ムービー編		
	キャプションを考え、コーデの説明を動画内で行う		
7	ブランド研究		
	ハイブランドからドメスティックブランドまでゾーンマップを制作		
8	ディスプレイスタイリング2		
	テーマ別にディスプレイを制作 2Fディスプレイスペースを予定		
9	アイテム研究		
	服飾雑貨の広告を考える		
10	アイテムスタイリング①		
	上記テーマアイテム1を撮影		
11	アイテムスタイリング②		
	上記テーマアイテム2を撮影		
12	アイテムスタイリング③		
	上記テーマアイテム3を撮影		
13	冬休みの宿題		
	冬休みに制作する課題を説明		
14	後期テスト		
	後期テスト		
15	後期テスト振り返り		
	テストの返却と解説		
16	後期まとめ		
	授業内容のまとめ 個人面談		

成績評価の基準	再試験に関して	成績の評価の方法
授業評価は5段階で評価され、単位の認定が行われる。またGPAの評価はオリエンテーション時に学生へ公表、保護者へ郵送される。	定期試験で合格出来なかった学生のための再試験を実施。	前期終了時、後期終了時に実施を行い、学習状況の把握を行う。
		その他
・成績は5段階で評価を行う A=優秀B=良いC=標準D=不可 ・GPA評価制度により客観的に評価を行う。 Gポイント変換： A=3 B=2 C=1 D=0 算出：(教科のGPA評価ポイント×単位数)の全教科合計÷総単位数(履修登録単位の総数)		授業の理解度の低い学生対象の補講を実施。姉妹校と共同で、多彩な授業を展開するクロスオーバー・フライデーを実施。

学校名：専門学校大阪ビジネス・アカデミー		授業担当	学科名：ファッションビジネス学科
教科名：ファッション販売能力検定対策3級		山脇 千穂 実務経験有	■ 1年前期
到達目標	3級の内容の理解 90%以上を目指す。 来年度の3級も踏まえた対策授業を実施。		2単位 30時数
回	授業内容		
1	A科目1章ファッション販売知識① 教科書の内容、問題集を解説		
2	A科目1章ファッション販売知識② 教科書の内容、問題集を解説		
3	B科目2章ファッション販売技術 小テスト、プレゼント包装とのしのかけ方		
4	B科目3章商品知識① 教科書の内容、問題集を解説		
5	B科目3章商品知識② 教科書の内容、問題集を解説		
6	B科目3章商品知識③ 教科書の内容、問題集を解説		
7	B科目3章商品知識④ 教科書の内容、問題集を解説		
8	B科目4章売り場づくり 教科書の内容、問題集を解説		
9	A科目5章マーケティング 教科書の内容、問題集を解説		
10	A科目6章販売スタッフの業務 教科書の内容、問題集を解説		
11	前期試験A科目1 筆記試験		
12	前期試験B科目1 筆記試験		
13	試験解説 試験解説		
14	前期試験A科目2 筆記試験		
15	前期試験B科目2 筆記試験		
16	試験解説 試験解説		

成績評価の基準	再試験に関して	成績の評価の方法
授業評価は5段階で評価され、単位の認定が行われる。またGPAの評価はオリエンテーション時に学生へ公表、保護者へ郵送される。 ・成績は5段階で評価を行う A=優秀B=良いC=標準D=不可 ・GPA評価制度により客観的に評価を行う。 Gポイント変換：A=3 B=2 C=1 D=0 算出：(教科のGPA評価ポイント×単位数)の全教科合計÷総単位数(履修登録単位の総数)	定期試験で合格出来なかった学生のための再試験を実施。	前期終了時、後期終了時に実施を行い、学習状況の把握を行う。
		その他
		授業の理解度の低い学生対象の補講を実施。姉妹校と共同で、多彩な授業を展開するクロスオーバー・フライデーを実施。

学校名：専門学校大阪ビジネス・アカデミー		授業担当	学科名：ファッションビジネス学科
教科名：カラーコーディネートⅠ		山脇 千穂 実務経験有	■ 1年前期
到達目標	色の持つ印象や効果を理解し、スタイリングやアパレル販売に活かした提案ができる。		2単位 60時数
回	授業内容		
1	ファッションと色の力 「色だけでコードはどれだけ変わる？」色が与える印象。同じ服でも色で変わるイメージファッションとカラーの関係		
2	配色テクニック（実践） 色の基本ルールを使って「最強の3色コード」を作る		
3	配色テクニック（実践） おしゃれに見える配色テク プロが使う配色 雑誌や画像からのワーク		
4	差し色の魔法 「差し色で一気にオシャレになる」ワーク、モノトーンコードに差し色を入れてコード完成		
5	F販売検定3級より P124～「色彩と配色の知識」色の三属性、色相、明度、彩度、トーン、清色、濁色		
6	F販売検定3級より P127～「色料と色光の三原色」色相を基準にした配色 ～P135まで		
7	実践コーディネート 5月の授業で学んだ3色コードをトレンドを入れて実践		
8	トレンドカラー 毎年変わるトレンドカラー コレクション SNS シーズンカラー 次のシーズンのトレンドカラーコードを作る		
9	F販売検定3級より P158～照明と配色 店舗の照明 店舗の色彩		
10	F販売検定3級より クロスコーディネート・アクセント配色・セパレーション配色・視認性の高い配色		
11	F販売検定3級より P142～商品の品質管理 色差（中希）によるクレーム管理・その他の商品不良について		
12	F販売検定3級より P118～柄の種類と特徴（カラーコーディネートによる柄の理解）		
13	F販売検定3級より P99～デニムの色の違いについて		
14	売れる売場のカラー アパレル販売で重要な色の並べ方 売れるカラー展開 グラデーション陳列		
15	前期試験 前期試験		
16	振り返り 授業内容の振り返りと前期試験の解説		

成績評価の基準	再試験に関して	成績の評価の方法
授業評価は5段階で評価され、単位の認定が行われる。またGPAの評価はオリエンテーション時に学生へ公表、保護者へ郵送される。 ・成績は5段階で評価を行う A=優秀B=良いC=標準D=不可 ・GPA評価制度により客観的に評価を行う。 Gポイント変換：A=3 B=2 C=1 D=0 算出：(教科のGPA評価ポイント×単位数)の全教科合計÷総単位数(履修登録単位の総数)	定期試験で合格出来なかった学生のための再試験を実施。	前期終了時、後期終了時に実施を行い、学習状況の把握を行う。
		その他
		授業の理解度の低い学生対象の補講を実施。姉妹校と共同で、多彩な授業を展開するクロスオーバー・フライデーを実施。

学校名：専門学校大阪ビジネス・アカデミー		授業担当	学科名：総合ビジネス
教科名：リテールマーケティング2級（1）（2）		坂本 勝 実務経験有	■ 1年前期
到達 目標	リテールマーケティング2級検定の受験5科目である「小売業の類型」		2単位 60時数
	「マーチャンダイジング」「ストアオペレーション」「マーケティング」		
	「販売経営管理」の総まとめとアウトプットに重点を置き、2級合格を目指す。		
回	授業内容		
1	授業ガイダンス		
	「リテールマーケティング2級」試験の概要と、資格の魅力や活かし方について説明		
2	小売業の類型①		
	組織小売業（チェーンストア）の基本とRC、VCについて学ぶ		
3	小売業の類型②		
	専門店、百貨店、GMS、スーパーマーケットの運営特性について学ぶ		
4	小売業の類型③		
	商店街とショッピングセンターの現状と課題について学ぶ		
5	マーチャンダイジング①		
	マーチャンダイジングと商品計画の戦略的立案について学ぶ		
6	マーチャンダイジング②		
	仕入計画の策定の基本について学ぶ		
7	マーチャンダイジング③		
	商品管理と物流政策の戦略的展開について学ぶ		
8	ストアオペレーション①		
	店舗運営サイクルの実践と管理について学ぶ		
9	ストアオペレーション②		
	作業割当の基本、レイバースケジューリングプログラムの役割と仕組みについて学ぶ		
10	マーケティング①		
	リテールマーケティング戦略の考え方について学ぶ		
11	マーケティング②		
	マーケットリサーチ（市場調査）の方法と進め方について学ぶ		
12	マーケティング③		
	マーケティング「確認テスト」		
13	販売経営管理①		
	販売に関する法律知識、不正競争防止法、景品表示法について学ぶ		
14	販売経営管理②		
	損益計算書と貸借対照表の基本と経営分析について学ぶ		
15	テスト		
	テスト		
16	まとめ		
	授業まとめ		

成績評価の基準	再試験に関して	成績の評価の方法
授業評価は5段階で評価され、単位の認定が行われる。またGPAの評価はオリエンテーション時に学生へ公表、保護者へ郵送される。	定期試験で合格出来なかった学生のための再試験を実施。	前期終了時、後期終了時に実施を行い、学習状況の把握を行う。
		その他
・成績は5段階で評価を行う A=優秀B=良いC=標準D=不可 ・GPA評価制度により客観的に評価を行う。 Gポイント変換： A=3 B=2 C=1 D=0 算出：(教科のGPA評価ポイント×単位数)の全教科合計÷総単位数(履修登録単位の総数)		授業の理解度の低い学生対象の補講を実施。姉妹校と共同で、多彩な授業を展開するクロスオーバー・フライデーを実施。

学校名：専門学校大阪ビジネス・アカデミー		授業担当	学科名：総合ビジネス
教科名：マネジメント検定初級(1)(2)		倉原 照幸 実務経験有	■ 1年前期
到達 目標	本授業は、経営マネジメントを学ぼうとする学生が、基礎から学ぶために経営学検定（マネジメント検定）の初級テキストを学ぶことで、初級レベルでの合格を目指していきます。		2単位 60時数
回	授業内容	備考	
1	企業と経営(1)		
	(1)企業と経営の概念(2)企業の部門形成と経営者・管理者の役割		
2	企業と経営(2)		
	(1)企業と経営の概念(2)企業の部門形成と経営者・管理者の役割		
3	企業・会社の概念と諸形態(1)		
	(1)企業の法律形態と経済形態(2)日本における会社の種類		
4	企業・会社の概念と諸形態(2)		
	(1)企業の法律形態と経済形態(2)日本における会社の種類		
5	所有・経営・支配と経営目的(1)		
	(1)株式会社の発展と経営機能の分化(2)経営者型企業と経営目的		
6	所有・経営・支配と経営目的(2)		
	(1)株式会社の発展と経営機能の分化(2)経営者型企業と経営目的		
7	会社機関とコーポレート・ガバナンス(1)		
	株式会社の機関とコーポレート・ガバナンス		
8	会社機関とコーポレート・ガバナンス(2)		
	(1)監査役会の機能と実態(2)取締役会改革と執行役員制		
9	会社機関とコーポレート・ガバナンス(3)		
	(1)指名委員会等設置会社(2)監査役等委員会設置会社		
10	日本型企業システム(1)		
	(1)日本型企業システムの特質と課題(2)稟議的経営と日本型経営		
11	日本型企業システム(2)		
	(1)メイン・バンク制度と株式相互持ち合い(2)日本型企業統治		
12	経営戦略の体系と理論(1)		
	(1)戦略概念(2)経営戦略論の系譜		
13	経営戦略の体系と理論(2)		
	(1)戦略概念(2)経営戦略論の系譜		
14	期末テスト		
	期末テスト		
15	総復習(1)		
	総復習(1)		
16	総復習(2)		
	総復習(2)		

成績評価の基準	再試験に関して	成績の評価の方法
授業評価は5段階で評価され、単位の認定が行われる。またGPAの評価はオリエンテーション時に学生へ公表、保護者へ郵送される。 ・成績は5段階で評価を行う A=優秀B=良いC=標準D=不可 ・GPA評価制度により客観的に評価を行う。 Gポイント変換：A=3 B=2 C=1 D=0 算出：(教科のGPA評価ポイント×単位数)の全教科合計÷総単位数(履修登録単位の総数)	定期試験で合格出来なかった学生のための再試験を実施。	前期終了時、後期終了時に実施を行い、学習状況の把握を行う。
		その他 授業の理解度の低い学生対象の補講を実施。姉妹校と共同で、多彩な授業を展開するクロスオーバー・フライデーを実施。

学校名：専門学校大阪ビジネス・アカデミー		授業担当	学科名：総合ビジネス
教科名：日本の企業経営Ⅰ・Ⅱ		倉原 照幸 実務経験有	■ 1年前期
到達 目標	事例研究を中心に、企業経営のあり方について実践的な事例を取り上げて授業を行う。		4単位 60時数
	毎回、1人の経営者を取り上げ考え方を学ぶ。		
	色々な経営者の考え方をすることで、会社運営について学ぶ。		
回	授業内容	備考	
1	事例研究		
	1人の経営者を取り上げ、その考察を学ぶ		
2	事例研究		
	1人の経営者を取り上げ、その考察を学ぶ		
3	事例研究		
	1人の経営者を取り上げ、その考察を学ぶ		
4	事例研究		
	1人の経営者を取り上げ、その考察を学ぶ		
5	事例研究		
	1人の経営者を取り上げ、その考察を学ぶ		
6	事例研究		
	1人の経営者を取り上げ、その考察を学ぶ		
7	事例研究		
	1人の経営者を取り上げ、その考察を学ぶ		
8	事例研究		
	1人の経営者を取り上げ、その考察を学ぶ		
9	事例研究		
	1人の経営者を取り上げ、その考察を学ぶ		
10	事例研究		
	1人の経営者を取り上げ、その考察を学ぶ		
11	事例研究		
	1人の経営者を取り上げ、その考察を学ぶ		
12	事例研究		
	1人の経営者を取り上げ、その考察を学ぶ		
13	事例研究		
	1人の経営者を取り上げ、その考察を学ぶ		
14	事例研究		
	1人の経営者を取り上げ、その考察を学ぶ		
15	まとめ(1)		
	これまでの授業の復習と総まとめ		
16	まとめ(2)		
	これまでの授業の復習と総まとめ		

成績評価の基準		再試験に関して	成績の評価の方法
授業評価は5段階で評価され、単位の認定が行われる。またGPAの評価はオリエンテーション時に学生へ公表、保護者へ郵送される。		定期試験で合格出来なかった学生のための再試験を実施。	前期終了時、後期終了時に実施を行い、学習状況の把握を行う。
			その他
・成績は5段階で評価を行う A=優秀B=良いC=標準D=不可 ・GPA評価制度により客観的に評価を行う。 Gポイント変換：A=3 B=2 C=1 D=0 算出：(教科のGPA評価ポイント×単位数)の全教科合計÷総単位数(履修登録単位の総数)			授業の理解度の低い学生対象の補講を実施。姉妹校と共同で、多彩な授業を展開するクロスオーバー・フライデーを実施。

学校名：専門学校大阪ビジネス・アカデミー		授業担当	学科名：フラワービジネス
教科名：フラワーデザイン実習 (1) (2) (3) (4) (5)		西河友美 実務経験有	■ 1年前期
到達 目標	フラワーデザインの知識や技術、フラワー産業としての花流通を学ぶ (成績評価の方法・基準) 出席率・課題評価・筆記テスト		5単位 150時数
回	授業内容	備考	
1	木下恵子氏デモンストレーション見学		
2	【A・B・C】造形バリエーション		
3	【A】テーブルセンターピース①（ラウンド）		
4	【C】身に着けるオシャレな花（ツーポイント）		
5	【A】年中行事の花（母の日）ラッピング技術		
6	【A】テーブルセンターピース②（ホリゾン）		
7	【B】ブライダルブーケ①（ラウンド）		
8	【B】ブライダルブーケ②（キャスケード）		
9	【B】ブーケ（花束）①（スパイラル）		
10	【B】ブーケ（花束）②（パラレル）		
11	【A】ジオメトリック（パーティカル）		
12	フラワーワーク①（フラワーデザイナー）		
13	フラワーワーク②（フラワーデザイナー）		
14	フラワーワーク①（フローリスト）		
15	フラワーワーク②（フローリスト）		
16	前期試験（木下恵子氏審査）		
成績評価の基準		再試験に関して	成績の評価の方法
授業評価は5段階で評価され、単位の認定が行われる。またGPAの評価はオリエンテーション時に学生へ公表、保護者へ郵送される。 ・成績は5段階で評価を行う A=優秀B=良いC=標準D=不可 ・GPA評価制度により客観的に評価を行う。 Gポイント変換：A=3 B=2 C=1 D=0 算出：(教科のGPA評価ポイント×単位数)の全教科合計÷総単位数(履修登録単位の総数)		定期試験で合格出来なかった学生のための再試験を実施。	前期終了時、後期終了時に実施を行い、学習状況の把握を行う。
			その他
			授業の理解度の低い学生対象の補講を実施。姉妹校と共同で、多彩な授業を展開するクロスオーバー・フライデーを実施。

学校名：専門学校大阪ビジネス・アカデミー		授業担当	学科名：フラワービジネス
教科名：フラワーデザイン実習 (1) (2) (3) (4) (5)		西河友美 実務経験有	■ 1年後期
到達 目標	年中行事の花を学ぶとともにN F D検定3級取得を目指す		5単位 150時数
	(成績評価の方法・基準) 出席率・課題評価・筆記テスト		
回	授業内容	備考	
1	フラワー装飾技能士3級【A B C】		
2	N F D 3 級パターン【A】①（共同形態）		
3	N F D 3 級パターン【A】②（並行ー装飾的）		
4	N F D 3 級パターン【A】③（トライアングラー）		
5	N F D 3 級パターン【B】①（丸い花束）		
6	N F D 3 級パターン【B】②（モダンー装飾的ブーケ）		
7	【A】年中行事の花①（クリスマス リングアレンジ）		
8	【A】年中行事の花①（クリスマス リース）		
9	【A】年中行事の花①（迎春門松アレンジ）		
10	【A】年中行事の花①（迎春注連縄飾り		
11	復興支援・花育事業参加		
12	N F D 3 級本番トライアル①		
13	N F D 3 級本番トライアル①		
14	N F D 3 級本番トライアル①		
15	N F D 3 級本番トライアル④		
16	後期試験（木下恵子氏審査）		

成績評価の基準		再試験に関して	成績の評価の方法
授業評価は5段階で評価され、単位の認定が行われる。またGPAの評価はオリエンテーション時に学生へ公表、保護者へ郵送される。		定期試験で合格出来なかった学生のための再試験を実施。	前期終了時、後期終了時に実施を行い、学習状況の把握を行う。
			その他
・成績は5段階で評価を行う A=優秀B=良いC=標準D=不可 ・GPA評価制度により客観的に評価を行う。 Gポイント変換： A=3 B=2 C=1 D=0 算出：(教科のGPA評価ポイント×単位数)の全教科合計÷総単位数(履修登録単位の総数)			授業の理解度の低い学生対象の補講を実施。姉妹校と共同で、多彩な授業を展開するクロスオーバー・フライデーを実施。

学校名：専門学校大阪ビジネス・アカデミー		授業担当	学科名：ITビジネス
教科名：Word		服部 久美子 実務経験有	■ 1年前期
到達目標	Wordの基本操作から文書の装飾・作表・画像挿入・ページ設定などを学び、ビジネス文書や簡単なポスター・案内文などを作成する実践的な力を身につけます。		1単位 30時数
回	授業内容	備考	
1	オリエンテーション 授業概要、自己紹介、入力練習		
2	ビジネス文書作成(1) 入力練習、Word画面、IME基本操作		
3	ビジネス文書作成(2) 入力オートフォーマット、範囲選択		
4	ビジネス文書作成(3) 移動とコピー、文字書式、段落書式（文字位置）		
5	ビジネス文書作成(4) ページ設定、印刷、前回の復習		
6	ビジネス文書作成(5) 段落書式（インデント、行間、箇条書き）		
7	ビジネス文書作成(6) 表の挿入と編集		
8	ビジネス文書作成(7) 表の編集(1)		
9	ビジネス文書作成(8) 表の編集(2)		
10	ビジネス文書作成(9) タブ		
11	ビジュアルな文書の作成(1) 画像の挿入、文字列の折り返し、ページ罫線		
12	ビジュアルな文書の作成(2) 図形の挿入と編集、ワードアート		
13	復習問題 ここまでの復習問題		
14	前期試験 PCを使った実技試験		
15	復習(1) 前期試験内容の振り返り		
16	復習(2) 復習とまとめ		
成績評価の基準		再試験に関して	成績の評価の方法
授業評価は5段階で評価され、単位の認定が行われる。またGPAの評価はオリエンテーション時に学生へ公表、保護者へ郵送される。		定期試験で合格出来なかった学生のための再試験を実施。	前期終了時、後期終了時に実施を行い、学習状況の把握を行う。
			その他
・成績は5段階で評価を行う A=優秀B=良いC=標準D=不可 ・GPA評価制度により客観的に評価を行う。 Gポイント変換：A=3 B=2 C=1 D=0 算出：(教科のGPA評価ポイント×単位数)の全教科合計÷総単位数 (履修登録単位の総数)			授業の理解度の低い学生対象の補講を実施。姉妹校と共同で、多彩な授業を展開するクロスオーバー・フライデーを実施。

学校名：専門学校大阪ビジネス・アカデミー		授業担当	学科名：ITビジネス
教科名：PowerPoint		服部 久美子 実務経験有	■ 1年前期
到達目標	PowerPointの基本操作からスライド作成、図やグラフの挿入、 デザイン・アニメーション設定までを学び、発表資料を作成し、 実際にプレゼンテーションを行います。		1単位 30時数
回	授業内容	備考	
1	プレゼンテーションの作成(1)		
	画面構成、表示モード、スライド、テーマ		
2	プレゼンテーションの作成(2)		
	ブレースホルダ、箇条書き、表の作成、編集		
3	プレゼンテーションの作成(3)		
	スライド操作、SmartArt		
4	プレゼンテーションの作成(4)		
	ワードアート、ネットの画像		
5	プレゼンテーションの作成(5)		
	グラフ、図形		
6	プレゼンテーションの作成(6)		
	マスター、アニメーション		
7	プレゼンテーションの作成(7)		
	画面切り替え、印刷、スライドショー		
8	プレゼンテーションの作成(8)		
	エクスポート、発表の姿勢		
9	課題作成(1)		
	与えられたテーマに沿ってプレゼンテーション資料を作成する		
10	課題作成(2)		
	与えられたテーマに沿ってプレゼンテーション資料を作成する		
11	課題作成(3)		
	与えられたテーマに沿ってプレゼンテーション資料を作成する		
12	課題発表(1)		
	プレゼンテーションの発表		
13	練習問題		
	日商PC検定 プレゼン資料作成3級実技問題		
14	期末試験		
	PCを使った実技試験		
15	振り返り(1)		
	前期試験内容の振り返り		
16	振り返り(2)		
	復習とまとめ		
成績評価の基準		再試験に関して	成績の評価の方法
授業評価は5段階で評価され、単位の認定が行われる。またGPAの評価はオリエンテーション時に学生へ公表、保護者へ郵送される。 ・成績は5段階で評価を行う A=優秀B=良いC=標準D=不可 ・GPA評価制度により客観的に評価を行う。 Gポイント変換： A=3 B=2 C=1 D=0 算出：(教科のGPA評価ポイント×単位数)の全教科合計÷総単位数 (履修登録単位の総数)		定期試験で合格出来なかった学生のための再試験を実施。	前期終了時、後期終了時に実施を行い、学習状況の把握を行う。
			その他
			授業の理解度の低い学生対象の補講を実施。姉妹校と共同で、多彩な授業を展開するクロスオーバー・フライデーを実施。

学校名：専門学校大阪ビジネス・アカデミー		授業担当	学科名：ITビジネス
教科名：Access基礎		服部 久美子 実務経験有	■ 1年前期
到達目標	Accessの基本を理解する データベースとは何かを理解する		1単位 30時数
回	授業内容		
1	データベースの基礎 授業内容について、データベースとは、ACCESSとは、オブジェクト、テーブルの作成		
2	テーブルの作成 テーブル作成と編集、データのインポート		
3	テーブル、リレーションシップ リレーションシップの設定、参照整合性、復習問題		
4	クエリ クエリの作成、フィールドの抽出、テーブルの結合、演算フィールド		
5	クエリ レコードの抽出（抽出条件、パラメータ）		
6	クエリ 集計クエリ、復習問題		
7	復習・SQL テーブル、クエリの復習問題、SQLの基本構文		
8	SQL SQLの基本構文		
9	フォーム ウィザードを使用したフォームの作成と編集		
10	フォーム フォームの編集		
11	レポート ウィザードを使用したレポートの作成		
12	レポート レポートの編集		
13	復習 復習の練習問題		
14	試験 試験		
15	試験の振り返り 試験問題の返却、解説		
16	まとめ 授業の復習とまとめ		
成績評価の基準		再試験に関して	成績の評価の方法
授業評価は5段階で評価され、単位の認定が行われる。またGPAの評価はオリエンテーション時に学生へ公表、保護者へ郵送される。 ・成績は5段階で評価を行う A=優秀B=良いC=標準D=不可 ・GPA評価制度により客観的に評価を行う。 Gポイント変換：A=3 B=2 C=1 D=0 算出：(教科のGPA評価ポイント×単位数)の全教科合計÷総単位数 (履修登録単位の総数)		定期試験で合格出来なかった学生のための再試験を実施。	前期終了時、後期終了時に実施を行い、学習状況の把握を行う。
			その他
			授業の理解度の低い学生対象の補講を実施。姉妹校と共同で、多彩な授業を展開するクロスオーバー・フライデーを実施。

学校名：専門学校大阪ビジネス・アカデミー		授業担当	学科名：ITビジネス
教科名：簿記初級（１）（２）		坂本 勝 実務経験有	■ 1年前期
到達目標	日商簿記3級の合格を目指す		4単位 60時数
回	授業内容		
1	オリエンテーション		
	簿記の学習にあたり、簿記の目的と種類、簿記の要素の基本を説明する。		
2	簿記の基礎（１）		
	簿記の仕組み、試算表の基本を学習する。		
3	期中取引の仕訳（１）		
	現金取引、銀行預金取引、小口現金取引を学習する。		
4	期中取引の仕訳（２）		
	商品売買取引、掛け取引、クレジット売掛金取引を学習する。		
5	期中取引の仕訳（３）		
	手形取引、有形固定資産取引、その他の債権・債務取引を学習する。		
6	期中取引の仕訳（４）		
	税金の処理、訂正仕訳、期中取引の集計を学習する。		
7	株式会社の会計		
	株式会社の設立、剰余金の配当と処分の処理を学習する		
8	決算整理（１）		
	決算手続き、決算整理の基本、売上原価の計算を学習する。		
9	決算整理（２）		
	貸倒引当金の設定、有形固定資産の減価償却、収益・費用の前受け・前払いを学習する。		
10	決算整理（３）		
	その他の決算整理事項を学習する。		
11	精算表		
	精算表の作成、総勘定元帳の各勘定口座の締切、仕訳調の締切を学習する。		
12	B/SとP/Lの作成		
	損益計算書の作成、貸借対照表の作成を学習する。		
13	模擬問題		
	模擬問題で練習を行う。		
14	後期試験		
	本授業の後期試験を実施する。		
15	講評と振り返り（１）		
	本授業の振り返りと後期試験の解答解説を行う。		
16	講評と振り返り（２）		
	本授業の振り返りと後期試験の解答解説を行う。		
成績評価の基準		再試験に関して	成績の評価の方法
授業評価は5段階で評価され、単位の認定が行われる。またGPAの評価はオリエンテーション時に学生へ公表、保護者へ郵送される。		定期試験で合格出来なかった学生のための再試験を実施。	前期終了時、後期終了時に実施を行い、学習状況の把握を行う。
			その他
・成績は5段階で評価を行う A=優秀B=良いC=標準D=不可 ・GPA評価制度により客観的に評価を行う。 Gポイント変換： A=3 B=2 C=1 D=0 算出：(教科のGPA評価ポイント×単位数)の全教科合計÷総単位数 (履修登録単位の総数)			授業の理解度の低い学生対象の補講を実施。姉妹校と共同で、多彩な授業を展開するクロスオーバー・フライデーを実施。

学校名：専門学校大阪ビジネス・アカデミー		授業担当	学科名：ITビジネス
教科名：簿記3級（1）（2）		坂本 勝 実務経験有	■ 1年前期
到達目標	日商簿記3級の合格を目指す		4単位 60時数
回	授業内容		
1	簿記演習①		
	日商簿記3級実践演習		
2	簿記演習②		
	日商簿記3級実践演習		
3	簿記演習③		
	日商簿記3級実践演習		
4	簿記演習④		
	日商簿記3級実践演習		
5	簿記演習⑤		
	日商簿記3級実践演習		
6	簿記演習⑥		
	日商簿記3級実践演習		
7	簿記演習⑦		
	日商簿記3級実践演習		
8	決算書類と企業経営		
	①決算書類と企業経営②損益計算書③貸借対照表④株主資本等計算書⑤キャッシュフロー計算書⑥会計のトレンドと決算書類		
9	経営財務分析		
	①経営寒分析とは ②経営財務分析の指標 ③モデル企業の財務データと経営財務分析		
10	企業価値①		
	①企業価値算定の全体像 ②企業価値の理解に必要なファイナンス理論		
11	企業価値②		
	①資本コストの算出 ②企業価値の算出方法 ③企業価値を高める方法		
12	損益分岐点計算①		
	①財務会計と管理会計のちがい ②損益分岐点		
13	損益分岐点計算②		
	①損益分岐点（数式による説明） ②損益分岐点の実践活用 ④固定分解		
14	テスト		
	テスト		
15	テスト解説		
	テストの返却、解説		
16	総復習		
	総復習		
成績評価の基準		再試験に関して	成績の評価の方法
授業評価は5段階で評価され、単位の認定が行われる。またGPAの評価はオリエンテーション時に学生へ公表、保護者へ郵送される。 ・成績は5段階で評価を行う A=優秀B=良いC=標準D=不可 ・GPA評価制度により客観的に評価を行う。 Gポイント変換：A=3 B=2 C=1 D=0 算出：(教科のGPA評価ポイント×単位数)の全教科合計÷総単位数 (履修登録単位の総数)		定期試験で合格出来なかった学生のための再試験を実施。	前期終了時、後期終了時に実施を行い、学習状況の把握を行う。
			その他
			授業の理解度の低い学生対象の補講を実施。姉妹校と共同で、多彩な授業を展開するクロスオーバー・フライデーを実施。

学校名：専門学校大阪ビジネス・アカデミー		授業担当	学科名：愛玩動物看護学科
教科名：動物形態機能学Ⅰ・Ⅱ		栗田 和恵 実務経験有	■ 1年前期
到達目標	動物の器官の位置や形、働きを学び、動物看護師に必要な知識の習得を目指す。		4単位 60時数
回	授業内容	備考	
1	概要		
	機能形態学とは、系統について		
2	細胞の構造(1)		
	細胞を分類する(核)		
3	細胞の構造(2)		
	細胞小器官		
4	細胞の構造(3)		
	細胞膜		
5	組織(1)		
	上皮組織		
6	組織(2)		
	結合組織		
7	組織(3)		
	神経組織		
8	組織(4)		
	支持組織		
9	骨格(1)		
	骨の構造や骨の名称		
10	骨格(2)		
	関節と筋肉		
11	感覚器(1)		
	眼の構造		
12	感覚器(2)		
	耳の構造		
13	感覚器(3)		
	鼻の構造		
14	前期試験		
	筆記試験		
15	振り返り(1)		
	理解できなかったところを復習		
16	振り返り(2)		
	授業のまとめ		
成績評価の基準		再試験に関して	成績の評価の方法
授業評価は5段階で評価され、単位の認定が行われる。またGPAの評価はオリエンテーション時に学生へ公表、保護者へ郵送される。 ・成績は5段階で評価を行う A=優秀 B=良い C=標準 D=不可 ・GPA評価制度により客観的に評価を行う。 Gポイント変換：A=3 B=2 C=1 D=0 算出：(教科のGPA評価ポイント×単位数)の全教科合計÷総単位数(履修登録単位の総数)		定期試験で合格出来なかった学生のための再試験を実施。	前期終了時、後期終了時に実施を行い、学習状況の把握を行う。
			その他 授業の理解度の低い学生対象の補講を実施。姉妹校と共同で、多彩な授業を展開するクロスオーバー・フライデーを実施。

学校名：専門学校大阪ビジネス・アカデミー		授業担当	学科名：愛玩動物看護学科
教科名：動物形態機能学Ⅰ・Ⅱ		栗田 和恵 実務経験有	■ 1年後期
到達 目標	循環器系・消化器系・泌尿器系・内分泌系について学ぶ。		4単位 60時数
回	授業内容	備考	
1	循環器系(1)		
	心臓の構造(外観)		
2	循環器系(2)		
	心臓の構造(内観)		
3	循環器系(3)		
	血管の種類		
4	循環器系(4)		
	体循環		
5	循環器系(5)		
	肺循環		
6	循環器系(6)		
	胎子循環		
7	消化器系(1)		
	口から胃まで		
8	消化器系(2)		
	小腸・大腸		
9	消化器系(3)		
	肝臓と膵臓		
10	泌尿器系(1)		
	腎臓の構造		
11	泌尿器系(2)		
	ネフロン		
12	内分泌系(1)		
	視床下部ー下垂体経路のホルモン		
13	内分泌系(2)		
	それ以外のホルモン		
14	後期試験		
	筆記試験		
15	振り返り(1)		
	理解できなかったところを復習		
16	振り返り(2)		
	授業のまとめ		
成績評価の基準		再試験に関して	成績の評価の方法
授業評価は5段階で評価され、単位の認定が行われる。またGPAの評価はオリエンテーション時に学生へ公表、保護者へ郵送される。		定期試験で合格出来なかった学生のための再試験を実施。	前期終了時、後期終了時に実施を行い、学習状況の把握を行う。
			その他
・成績は5段階で評価を行う A=優秀B=良いC=標準D=不可 ・GPA評価制度により客観的に評価を行う。 Gポイント変換：A=3 B=2 C=1 D=0 算出：(教科のGPA評価ポイント×単位数)の全教科合計÷総単位数(履修登録単位の総数)			授業の理解度の低い学生対象の補講を実施。姉妹校と共同で、多彩な授業を展開するクロスオーバー・フライデーを実施。

学校名：専門学校大阪ビジネス・アカデミー		授業担当	学科名：愛玩動物看護学科
教科名：動物内科看護学実習Ⅰ		泉 千尋 実務経験有	■ 1年前期
到達目標	内科診療の補助に必要な基礎知識の実践		2単位 60時数
回	授業内容	備考	
1	実習室内の衛生管理		
	診察台や実習室の衛生管理が実施できるようになる		
2	犬の保定の基本		
	内科診療に必要な基本的保定（犬）が実践できるようになる		
3	猫の保定の基本		
	内科診療に必要な基本的保定（猫）が実践できるようになる		
4	体重・体温・体表リンパ節		
	体重・体温を計測し、体表リンパ節の触知ができるようになる		
5	BCS・ツルゴールテスト		
	体型や脱水状態が正しく評価できるようになる		
6	股動脈圧・CRT		
	股動脈の触知や毛細血管再充満時間の観測ができるようになる		
7	器具の扱い（体温計・聴診器）		
	診察に用いる器具の扱いを習得する		
8	器具の扱い（シリンジ・注射針）		
	診察に用いる器具の扱いを習得する		
9	心音と呼吸音の聴取		
	正しく胸部聴診ができるようになる		
10	神経学的検査		
	神経学的検査が正しく実施できるようになる		
11	皮膚検査		
	搔把試験などの各種皮膚検査が正しく実施できるようになる		
12	眼科検査		
	シルマーティアートテストなどの眼科検査が正しく実施できるようになる		
13	外耳道検査		
	耳鏡検査や耳垢検査が正しく実施できるようになる		
14	前期試験		
	授業の理解度を確認する		
15	振り返り(1)		
	試験の解説		
16	振り返り(2)		
	総まとめ		

成績評価の基準	再試験に関して	成績の評価の方法
授業評価は5段階で評価され、単位の認定が行われる。またGPAの評価はオリエンテーション時に学生へ公表、保護者へ郵送される。 ・成績は5段階で評価を行う A=優秀B=良いC=標準D=不可 ・GPA評価制度により客観的に評価を行う。	定期試験で合格出来なかった学生のための再試験を実施。	前期終了時、後期終了時に実施を行い、学習状況の把握を行う。
		その他
		授業の理解度の低い学生対象の補講を実施。姉妹校と共同で、多彩な授

Gポイント変換： A=3 B=2 C=1 D=0 算出：(教科のGPA評価ポイント×単位数)の全教科合計÷総単位数(履修登録単位の総数)		業を展開するクロスオーバー・フライデーを実施。
---	--	--------------------------------